

なかつか 亮



保育園増設を求める署名がスタート

認可保育園の増設を



署名を始めた新婦人品川支部のメンバー。写真は武蔵小山駅前にて。

「1月に生まれた娘が保育園に入れなくて困っているのよ。認証保育園は保育料が高いし。早く認可保育園に入れないと、職場復帰も難しくなってしまう」、大井町駅で「保育園の増設を」とハンドマイクで訴えていたら、若いお母さんに声をかけられました。いま、保育園不足が深刻です。保育園の増設を求める署名運動が始まりました。是非、「ご協力を。」

今年の入園状況

5月11日の文教委員会
会で今年4月の保育園
入園が報告されました。

申し込み数は1589人。入園者数は1101人。つまり488人が保育園に入れません。私は「入れないお子さんを、どう解決す

るのか」と、認可保育園の増設を求め、質問しました。

区は、民間企業の認証保育園の誘致や幼稚園に保育園機能を付け加える幼保一体化施設の整備による対策を説明。私は「それで解消される見通しなのか」

認可保育園の増設が必要です

「先を見通すことは難しい」と答えました。

「見通し困難」とは、区の対応策では不十分だという事です。私は、区は待機児童ゼロを掲げ、認可保育園の増設を対策の基本に据えるべきだと思います。

共産党は、区が主体的に認可保育園を設置すること、緊急策として区の空き施設、空き教室などの活用も検討すべきと求めています。

裏へ

あつという間に行列が

保育園不足が深刻になる中、「早く何とかしなければ」と、新婦人の会品川支部のメンバーが署名運動を始めました。紹介します。

5月中旬、武蔵小山駅前にて4人で署名行動。約1時間で65筆集まる。参加者のひとりは「始めはどのぐらい署名が集まるか不安だったけど『保育園の増設を』との横断幕を出したとたん、次々と人が集まり『私の友達の子どもが保育園に入れずに困っている。なんとかしてほしい』『署名を持ち帰って、近所の友達にお願いしてもいいですか』など大反響。次は他の駅前でもやろう。お散歩コースになっていく公園に行こう」と話しています。

子どもは社会の宝物。

そして未来を担う主人校です。一刻早く、認可保育園を増設させるため、力を合わせましょう。

署名用紙

署名用紙は請願代表者「新婦人の会 品川支部 3787・5188」又は、なかつか亮まで。

保育園不足問題のもつと詳しい内容は、共産党区議団ホームページ「区議会報告5月号」をご覧ください。なかつか亮



解説：新婦人の会

正式名称は新日本婦人の会。1962年に結成され、創立よびかけ人は作家の野上弥生子さん、童画家のいわさきちひろさん等。国連NGOに認定されている女性団体です。



この辺りに、親タコ（滑り台型）が新設される予定です。右は移設を待つ、現在の子タコ。



「タコ公園」進捗状況

当初の計画より遅れている通称：タコ公園の整備状況。近所の子どもからは「子どものタコがひとりで寂しそう」との声もあがっています。区に進捗状況を聞くと「工事が遅れて済みません。下神明駅前の駐輪場整備が終わったのちに、親タコの新設、子タコの移設を行う計画です。今年中にはスケジュールの詳細が決まる予定ですので、しばらくお待ち頂きたい」とのことでした。どんな公園になるのか、計画がわかり次第、随時、ニュースでお知らせします。

次回の『気軽な 町の無料法律相談会』のお知らせ

次回の法律相談会は7月31日(金)午後6時～8時。場所は日本共産党なかつか亮事務所です。なお、「派遣切りで収入が断たれ、家賃が払えない」「医療費の負担が大変」など生活相談などは、いつでもご連絡ください。相談はお気軽に。

連絡先 昼：区議控室 **5742-6818** 夜：事務所 **3773-3231**